

KP4 旅行記

W2/JR3IXB 沖正典



年末年始の休み(12月28日~1月1日)に家族でKP4に行きました。仕事の都合で休暇が直前までハッキリとせず、行き先は航空券の取り安さ(HI)だけで決まってしまいました。この時期のカリブ方面への旅行は、寒いNYから抜け出すとうだけで、十分に意味のあることなのです。

KP4はカリブ海に位置する旧スペイン領の島で、現在はKH2と同様、米国の準州という位置付けです。KP4内での自治は認められているものの、合衆国議会では投票権がなく、外交なども米国連邦政府が決定権を持ちます。また、島民は米国市民権を持っていても、アメリカ大統領を決める連邦選挙には参加できないなど、正直、私には理解できない複雑なステータスのようですが、家のお向かいのIBMを退職された悠々自適なMBA叔父さんに聞いても私と同じような知識でしたので、まあええかとこれ以上勉強しておりません(SRI)。という訳で、旅行としても、また、無線的にも完全に米国ドメスティックですので、FCC免許を持っていない私はそのままJAのコールを使い、KP4/JR3IXBでオンエア可能です。無線に関しては十分な準備ができませんでした。いつもの通り(?)ホテルの部屋から電波を出せるように、スーツケースにアンテナ材料等を詰め込み出発しました。リグ(FT-100D)とパソコンは手荷物です。

適当にオンラインで取ったホテルだったのですが、最初に通された部屋はJAショートバス方向とは反対の南向きの3階で、しかも少し五月蝋い部屋でした。ここは以前のKL7やKP2での経験を生かし(?)、部屋のアップグレード交渉へ・・・なんとか海に面した北側4階に移れました。無線のためとは言え、お父さんの頑張りで家族も納得の笑顔となりました(汗!・・・Hi)。もちろん年末年始故、ホテルはほとんどフルブッキング状態だったようでしたので、露骨にいやな顔はされましたが・・・いざベランダANT設置と思いきや、滞在期間中、

風が相当に強かったため、もし飛ばされたら?という不安も横切り、無茶なロングサイズANTはあきらめられました。まあJAは無理やろなというANTでしたが、それでもEUに対しては40mCWで結構なパイルになり驚きました。JAの大晦日朝方、20mSSBでJA3BOA/乾さんがW1の局と交信しているのが聞こえました。W1局の中継もありましたが、結局、ヘルプの必要がないくらいの信号強度で乾さんとQSOできました。唯一のJAとのPHONEによる交信です。しかしながら、直前にRTTYでCQを出していたため、その時、リグを50Wに設定したまま電波を出していました。乾さんの耳は流石です(MNI TNXI)。その後、JR3IIR石野さんにコールいただきましたが、同じタイミングで出てきた近接のWの混信のためQSOできませんでした。今回は、このBFなアンテナに追い討ちをかけるようなBAD CONDXでしたが、JA元旦の朝(KP4大晦日夜)、さらにハブニングが重なってしまいました。20mCWでJAとようやくオープンし、パケクラにもコールが挙がり、さあこれからという時にホテルの部屋が停電となってしまったのです。しかも5分位で復旧したと思ったら、再度停電に!・・・よりにもよってJAとオープンしている時間帯に2回も停電です。その日はホテル内から「ゆく年くる年」のようなTV中継を行うため、屋外での照明など沢山の機器をセッティングしていたのですが、その時の電気工事のミスで、部屋の電気系統のブレーカーが作動したようです。無線は戦意喪失(?)となりましたが、結局、大晦日はホテル内でゆっくりと過ごすことができました。家族にとっては良かったかも知れません。ゆく年くる年の番組にも参加(?)できましたし・・・(Hi)。

結局、無線はサッパリでしたが、KP4の首都サンファンを中心に観光を十分に楽しむことができました。特に旧市街のオールドサンファンは、立派な教会や石畳、家のカラーリングなど、スペイン統治

時代の町並みがあるまま残る独特な雰囲気であり、非常に印象深いものでした。また、到着時、空港でレンタカーを借りて走りはじめた時、最初に、どう見ても一旦停止の標識に"STOP"ではなく"PARE"と書かれているのを見た時には目が点になってしまいました。KP4の島全体に亘り、交通標識は今でもスペイン語標記となっていたのです。(当然ながら?)色もデザインも米国内の標識と同じだったので、なんとなく意味は解るのですが、驚くと共に、緊張倍増で運転することになりました(Hi)。

以上、無線の成果がさっぱりでしたのでニュースレターの記事としては気が引ける面もありますが、異国情緒あふれる観光の写真をお楽しみ頂けましたら幸いです。

FB DX & 73!



4度目のスリランカ

JA3ART / 4S7GGG 海老原 和夫

2004年もまた9月17日から25日までの9日間、スリランカへ行ってきました。2001年から毎年の訪問ですから今回で4度目ということになります。これは関西を中心とした有志が集まり、スリランカでのアマチュア無線を現地HAMとの交流を通して活性化させるきっかけになればとの思いから毎年訪問するようになりました。

スリランカとは

位置はインドの南端右下にある北海道の8割程度の面積を持つ島で、人口は宮崎県と同じくらいの人々が暮らしていて1972年にイギリスから独立した際に旧国名"セイロン"からスリランカ(SRI LANKA=光輝く島)と改名しました。

紅茶と宝石とくに良質のルビーを産する(ダイヤモンドは出ない)ことでも有名で、また島の形と位置から"インドの涙"などとも呼ばれています。

全人口の82%がシンハラ人、そして7%が仏教徒であり、言語はシンハラ語とタミール語が公用語となっていますが連結語として英語が使用されているため、都市部や公官庁では100%英語が通じます。ただ彼等の日常使用する英語はかなり訛りが強く、彼等同士の会話では英語とは全く感じられない語感です。ただ、私たち外国人との会話では、それなりに判りやすい発音で接してくれます。(それが出来ない人もいますが)

スリランカへのアクセス

関空からは直行便がなくどこかで乗り継ぎとなります。2001年と2002年の時は一旦成田へ出て、そこからモルジブ経由のエア・ランカン航空の便を利用しましたが、大阪(関空や伊丹)から成田までの国内便のアクセスが悪く結局成田で5時間ほどの待ち時間となりました。(モルジブでは機内で1時間待ち)2003年の時は関空からバンコク経由のタイ航空を利用しましたが、これもまたバンコクで5時間の時間待ちとなりました。今年はシンガポール航空を利用しましたが、やはりシンガポールで5時間の時間待ちになりました。しかし、シンガポール(チョンギ国際空港)では、いろいろな施設が整っていて綺麗な空港でしたから5時間の時間待ちもそんなに"苦"にはなりませんでした。

現地での移動手段

一般的な交通機関はまだ未完成ですから、外国人にはバスや鉄道での移動はまず無理だと思います。タクシーは4輪自動車の料金メーターを備えたものはまず走っていません。パジャージと呼ばれる3輪タクシーが現地の人々の足となっています。これも乗る前にシンハラ語で料金交渉をする必要がありますので、外国人が利用するのは難しいようです。現地の人と何度か乗りましたが、5kmくらいの距離で90円程度でした。また、4輪タクシーはコロンボ市内の4S7EA/Mr.Ernestの自宅から宿泊先のNegomboのホテルまで約40kmを1時間30分かけて走り、それで千五百円でした。これはErnestさんが電話でタクシーを呼んでくれ、大体の料金を前もって教えてくれたので利用できた訳です。レンタカーも利用は可能ですが、スリランカでの運転マナーは最悪でとても日本人が運転できる状態ではありません。1日運転するだけで絶対に1度は事故に遭うこと間違いなしです。空港からホテルまでの送迎も必ず事前に現地旅行社と契約しておく必要があります。

宿泊施設

コロンボなど大都市圏では高層の立派なホテルがありますが、地方都市では3階建て程度のホテルに

なります。地方の田舎の観光地などでは土地が広いので平屋建てかコテージ・タイプが多くなります。無線をするにはこのコテージ・タイプが最適で出来るだけ離れた棟で3つくらいシャックを立ち上げれば、4波程度の同時運用が可能となります。過去何回かは、このスタイルで運用することができました。

GUEST ROOMは清潔感があり問題はありますが、地方のホテルではシャワーのお湯の出ないことが度々ありました。また蚊の対策は必要です。

インド洋に面したホテルでは時期により(5月から11月くらい)海側からの強風が常時吹いているのでSea Sprayと呼ばれる泡沫が建物内にも飛散し、カメラや無線機の防湿対策が必要なくらいの凄い湿度になります。

食事

都市圏でのホテルではまったく問題ありませんが、地方ではカレー主体の食事になります。ただ、日本でイメージするものとは少し違って、牛肉(水牛の肉なので超硬い)、魚(骨付きのぶつ切り)、野菜、豆カレーと結構バリエーションに富んでいて美味しいいただけます。そして香辛料などもいろいろあり自分の好みでブレンドできる様になっています。カレー自体も日本での"汁物"の感じで"汁かけご飯"の様な感じになります。

電源

無線をするには電源が気になることです。電圧は230ボルト50サイクルで110ボルト・ラインはありません。都市圏では停電の問題はありませんが、地方での運用では停電を考慮しておく必要があります。ひどい時は5分から10分程度のもので1日に10回以上も停電した事がありました。一昨年は、デジタル・モードを運用するためのパソコンの電池がダウンしていて、停電のたびに、ソフトをインストールするという経験をしました。

アマチュア無線の現状

何局かの現地のHAMを訪問する機会がありましたが、スリランカで一番アクティブに運用している局ですら彼の無線設備やパソコンは、日本ではまず使用されていないであろう1世代も2世代も古いものを大事に使っているのを見たとき、過剰にならない範囲での援助が必要であろうと感じました。同軸ケーブルなどは入手困難であるため訪ねた局では、まだハシゴ・フィーダーを使っていました。免許を受けてコールサインを持っている人は200名以上いるのですが、無線機や同軸ケーブルが入手できないため殆どの人たちが開局できないのが実情の様です。外国人がスリランカで運用するためにはTRC(Telecommunications Regulatory Commission)にここのHPからダウンロードした所定のフォームで申請することになるのですが、書類の中に無犯罪証明書なるものがあります。これは所轄警察署で発行可能ではあるのですがその発行には通常6ヶ月程度が必要であり結構面倒なものです。今回判ったことなのですが、この書類はスリランカ・アマチュア無線連盟(RSSL)の保障があれば省略される様です。持ち込む無線機のシリアルナンバーまで届けることになり、通関の際、税関でき

ちりとチェックされます。これは紛争国であるため、反政府組織に無線機類が流れるのを懸念した政府の処置であろうと思われます。あと、郵便の届く現地での住所が必要です。免許期間は原則として滞在期間のみです。申請料として1800円程度が必要です。郵便事情は最悪で、申請書類の発送は最初のころは書留郵便を使っていたのですがこれでも届かないことがあったので結局今年はDHLを利用しました。ただ、一回の発送で4000円程度かかりかなり高い送料になります。

今回の運用

4度目となる今回は2004年9月17日から25日まで、コロンボから40km南のインド洋に面するNegomboという町のリゾート・ホテルから運用しました。

海辺に面したFBなロケーションであったため3.5~21Mhzで約5,000QSOの成果でした。

また、わざわざコロンボから多くの現地HAMが訪ねてきてくれ、おおいに親睦を深めることができました。そしてこの町には4S7NE/Mr.Nelsonが住んでいて彼の家へ招待してくれました。広い敷地なのでローバンドはワイヤー系アンテナを、14-28はモズレーのTA-33を使っていました。

帰国日の夜はRSSL(スリランカ・アマチュア無線連盟)のメンバー6人を晩餐に招待し名残を惜しみ再会を約束しました。

スマトラ沖地震での津波被害

このレポートを書いたあとにあの巨大津波がスリランカを襲い、今年運用したネゴomboの町、昨年運用したゴールやベントタの町はインド洋に面しており壊滅的なダメージを受けました。現地のRSSLに置いてきたアマチュア無線用の通信機器が非常通信に活用され、役立っているとのメールがあり、まだまだ通信機材が不足している状態であるので救援活動の一環として1月には携帯型の無線機を送り更に2月初めに3人の仲間が短波帯の無線機を持ち込むと共にエコーリンクを立ち上げる作業などを行います。微力ではありますが私達のアマチュア無線が復興の一助になればと願っています。



運用中の4S7GGG 海老原氏



スリランカ、津波被害

Memory of 30 years

JA3UB 三好 二郎

最初にフィリピンを訪問してから30年になるが、現地のハムやその家族それらの友人等との交流は脈々と続いている。昨年亡くなった親友 DU1ILM ルイのお墓参りや大阪で開催予定のコンベンション打ち合わせの為に訪比した。



スービックの旧米軍将校宅

現在は工業団地と保養地になっている米海軍基地のあったスービックヘマニラから車で向かい、ここで先ずリラックス、元将校の住宅はロケーションの良いところ、此処へアンテナを揚げたらエエなあ、その昔駐留米軍の連中がここから強い電波を送っていたなどと虫が騒ぎ出すのであった。手前味噌ながら、この地へ来ていることを公開すると会わねばならない人達がイッパイ居るし多忙な友人達に迷惑をかけたくないで今回は隠密行動のつもりでハイヤーを雇って行動することに、一通りの視察を終えて DU1POP フレディに明日ハイヤーを訪ねる、と電話したら迎えの車を差し向けるからハイヤーをキャンセルする言われてしまったので今までの費用を清算して以後のハイヤーはキャンセルした。

フレディのオフィスでルイの奥さんナニンと待ち合わせて暫く積もる話に花を咲かせたのであるが、この人達は実によく喋るのでいつまでたっても話は尽きない(笑)。

場所をヨットクラブに移して昼食後マニラ郊外にあるルイのお墓へ日本のODA援助によって出来た高速道路経由で向かった。マニラ周辺の道路混雑は半端ではなく運転免許を持っているだけではとても走れない。ナニンとルイの思い出話しながら途中で彼が好んだ花を買ひ予め用意したあった蠟燭をスペイン出身の両親の隣で眠っている彼のお墓に手向けたのであった。

親戚同様のフレディやルイの家族にフィリピン



マチュア無線協会 (PARA) 会長ジョー・マリ夫妻が加わって晩餐会をすることになった。フレディの次女とルイの長女は夫々アメリカの大学を卒業してアメリカに住んでいるが、結婚式以来会っていないアナや小学生であったシュガーと十数年ぶりに会うのが楽しみであった。アナは15歳の子供を持つオバサンに、シュガーはイギリスの大学を卒業して父親の会社を仕切るところまで成長していたがタイムマシンは昔に戻って以前と同様オジサン!とピッタリ擦り寄ってきたのであった。

特に20年ぶりに再開したMVFは挨拶の抱擁をしながら大粒の涙を流していた(鬼の目にも涙?)。抱き合ったり泣いたり笑ったり、少し異様な光景であったとおもわれるがレストランの客の視線が我々に注がれているのを感じた。それもその筈、ナニンは往年のミスルソン島、アナは元ファッションモデル、ジョー・マリは元人気歌手で俳優、その奥さんは元女優、フレディは実業家で一流ゴルフクラブの理事長等を務める名士である。雇ったハイヤーのドライバーに人気俳優のロニー・ヘナレスの親父 (DU1NRS) は俺の友人だと言ったら怪訝な顔をしていた。



そのフレディも7年前に心臓発作で倒れた時は両手両足が動かず片目が見えず声も出ずと当に最悪の状態に陥り医者曰く、回復の見込みは薄い命が持てば2年位で少しは良くなる可能性もあるということであった。それが奇跡はあるもので2ヶ月程で手足が少し動くようになり車椅子で行動、目も回復、声も出るようになりIT技術をフルに活用してマネジメント再開、なんと6ヶ月後には現役復帰した。現在は本人曰く、95% OK セミリタイアしてゴルフ三昧トーナメントにも出場、そしてカップ獲得。彼の生き様、根性と思いやりや気配り、それに伴う周りのサポート等などを知る者は、神が幸運をもたらしたと信じている。

彼等の住まいは一般のところから銃を持ったガードマンが常駐するゲートを通ってから車が猛スピードで走れないように道路の所々には膨らみをつくってある別社会にある。お屋敷には食事賄い婦、掃除婦、雑用係、ドライバー等が居る。ことの良し悪しは別として我が国のように社会主義的悪平等の世界ではなく、お金持ちは貧しい人達を助け面倒を見て応分の社会負担をする代わりに豊かな生活をし社会的負担が出来ない人達はそれに従うという仕組みになっている。趣味を楽しむのも、それなりのお金と技量

を必要とするのは当然であり、それを成したい為に一所懸命(かどうかは疑問ではあるが)みんな努力した。



私がアマチュア無線の免許を取得した1955年当時は無線従事者の資格を得る為に国家試験に合格して免許申請するには「禁治産者、準禁治産者にあらず」等身分証明と心身共に健全であることを証明する医師の診断書等を必要とした。また無線局の免許情報は当然のこととして公開されていた。敢えて言えば我が国に於いては人権やプライバシーに関する誤った解釈がまかり通るようになってしまっているのではなからうか? 意外と思われるかもしれないが向こうの人達は底分に従って実によく働いていて実業家はITの機器(デジカメ付携帯電話、パソコン等)を駆使して効率よくやっている。見てくれはチャランポランでも肝心のところはキッチリ抑えているのである。本物のチャランポランは何処の世界にも居るが一見真面目そうで中味はチャランポランではタチが悪いが外見も中味も同じであれば害はない(笑)。一番タチが悪くないのは何処かのお役人や銀行によくみられる・・・オットあまり話しが脱線すると編集でカットされそう(爆笑)。

実はフィリピンのアマチュア無線の歴史は結構古くて1920年代前半からやっていた人達とも御付き合いいただいていたが、その人達はもうこの世に居ない。唯一健在の DU1AW Tony 爺さんは? というとうと75才を超えて尚ヨットで今はアフリカの最南端辺りを航行中だそうでプロ?のヨットマンと違ってスポンサーも無し、報道や賑やかな振る舞いを避けてアマチュア無線とヨットを優雅に楽しんでいるようだ。彼等の心の豊かさを見習いたいものだ深く反省した次第である。ここでも出会いの不思議? (J13ZAG Newsletter Sep. 1, 2003号参照)

先に雇ったハイヤー会社のスタッフと雑談をしていたとき彼女が自分の家庭のことやダンナのことを話し出し観光旅行関係のことが話題になり、「俺の友人にも関係者が居るよ。その会社の副社長のタンパロングだ」と言ったらナント「私のダンナは以前はそこに勤めていて結婚式にも来てもらいました。」ウン・・・そのタンパロングとは25年前に大阪とマニラで不思議な出会いをした DU1JB Ricky で、当時新婚はやばやの若者であった彼も今は55歳でリゾート経営会社の副社長である。彼にウチのリゾートに来てゆっくり無線をやったら・・・誘惑?されて、それもええなあ。若しかするとボクも老人の仲間入りしたのだろうか?と危惧する反面アマチュア無線ってホントウに素晴らしい!と再認識した次第である。

一枚の写真から

JA3AER 荒川 泰蔵

N2ATT/I2 の巻

1987年10月、米国滞在中に休暇を利用してロンドン経由でイタリアとスイスへ旅をした。旅行でなく旅といったのは、団体旅行の予定が定員に満たずキャンセルになり、XYLと2人でローマからフローレンス、ミラノ、ジュネーブと電車を乗り継いで移動したからである。そしてミラノでは事前に連絡しておいたI2MQP, MarioとKE6RD中田さんにお会いする事ができた。I2MQP, Marioとは米国のNJDXA(North Jersey DX Association)のミーティングで知り合ったのだが、イタリアの連盟ARIの役員を務められるDXerでもあったので、彼に依頼してイタリアでの運用許可を申請しておいた。写真はそのI2MQP, MarioのシャックでN2ATT/I2としてゲストオペをさせて頂いた時、彼と一緒に撮影したものである。その日はコンディションが悪く7MHzでJA5AQCとQSO出来たのが唯一のJA局だった。残念ながら14MHzでは北米やヨーロッパの局とのQSOだけに終わった。



2005 新年会

大阪国際交流センターにて (2005・1・28)



Newsletter
http://www.ja3.net/ji3zag_ni
 会報を自由にダウンロードすることができます

大阪国際交流センターラジオクラブ
JI3ZAG

Web: <http://ja3.net/ihouse>

ロールコール
 毎週土曜日 9:00JST@14.160MHz

月例会
 大阪国際交流センター
 多岐路の心脈